

筑波大学新聞

第257号

編集責任 筑波大学新聞
編集委員会
委員長 中村紀一

TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

総合科目 新編成へ向け議論白熱
バスケット 接戦制し3連覇達成
柔道 福見貫禄のオール一本勝ち
IOC会長に名誉博士号
スポーツ 30周年記念企画を開催
自然学類記念誌を作成

7 7 6 5 5 2

特集 4
着る・味わう——
筑波大発オリジナルグッズ

おことわり
今月号は8面構成で発行しました

筑波大学出版会 研究成果を発信 設置、来年度中に

研究者の出版機会の確保▽
教科書刊行による教育水準
及び体系的教育の確保▽出
版会設立と著作物刊行によ
る本学の存在感のアピール
などが挙げられる。

出版会については、人文
社会科学研究科の教員が中
心となり、設立のための検
討をしてきた。02年に有志
懇談会、04年に筑波大学出
版部門設立準備委員会を設
立、学内アンケートを実施
した。しかし、理系の研究
者は学術誌への論文掲載と
いった業績発表の手段もあ
ることから、大学全体の
支持は得られなかった。

出版不況といわれる現状
において、出版会設立とそ
の運営に必要な資金、場所
の確保は不可欠。法人化
による援助が不可欠。法人化
後の厳しい財政状況の中、
出版会設立の実現には全学
的な合意が必要となる。

吉武副学長は「出版会設
立と出版物の発行は、大学
における研究の質の高さを
示すものだ。大学による負
担の上限を決めた上で、学
術的価値のある本を出す
出版していきたくて話した。

硬式野球部

10年振りに神宮進出

首都大学秋季リーグ

東海大下し、リーグV

主戦・坪井が三冠獲得



日体大戦で好投する坪井（9月23日、等々力球場）

首都大学野球秋季リーグの最終試合が10月23日、平塚球場（神奈川県平塚市）で行われ、本学硬式野球部が6-3で春季の王者・東海大を破り、勝ち点を5として、1996年秋以来10年ぶり4度目となるリーグ優勝を輝いた。

本学はここ数年、5位など低迷していた。「最終節まで勝ち点を4つ取り、東海大への挑戦権を得た」。今年で就任6年目になる川村卓監督（体育・講師）は開幕前、そう話していた。その言葉通り、最終節まで各節とも3戦に及ぶ

野村良和・体育専門学群長）で検討している。改修の内容はWGで策定される。狭い講義室を拡大すること、照明やトイレを改修することなどが決定している。工事時期に間に合うよう、年内に色彩計画案を決定する。体芸中央棟の西側は改修後、体芸中央ホールに彫刻作品を置くほか、大石膏室での制作風景が外から見えるようにガラス張りにする予定だ。

アスベスト除去工事

体芸棟をリニューアル

トイレ改修、冷暖房も

アスベスト除去工事に合わせて、体芸中央棟、第一学群E棟で耐震や内装などを改修する全面的なリニューアル工事が始まった。体芸中央棟の工事は9月19日に着手し、2007年3月30日完成を目指す。筑波キャンパスの校舎を全面リニューアルする工事は今年度、アスベスト除去

工事は体芸中央棟の全面で行い、耐震、内装などのリニューアル工事は主に芸術専門学群が使用する西側のみ行う。工費は前年度補正予算でまかなう。主に体育専門学群が使用する東側や筑波キャンパスで老朽している他の建物のリニューアル工事は次年度以降に行う見通しだ。



色づいた木々も葉を落とし始めた（春日4丁目）
（撮影・関田航＝体育専門学群）

岩崎学長を再任

新たな任期制を適用

学長選考会議（議長＝古賀正一・市川学園理事長）は10月13日、岩崎洋一学長の再任審査を行った。投票の結果、全会一致で2年間の再任を決めた。岩崎学長の任期は04年4月から07年3月までの3年間だった。同会議では、筑波大学における学長選考のあり方について検討していた。

03年に岩崎学長を選出した際には、現在の任期制度が定められていなかったとして、「今回の再任審査では、意向調査を行うべきではないのか」という意見もあった。ある教員は「学長を再任する際には、信任投票を行うことで学内の結束を固めて欲しい」と話した。

学長選考会議には、教員から185人の署名を集めた要望書も出されていた。同会議はこれらの意見を踏まえ、「今回の決定にあたり、学長のリーダーシップの下、全構成員が一致協力し、本学がさらに発展することを望む」と表明した。

「神の思召しで三枚の硬貨」。中世ヨーロッパでは、酒に酔うと市民に罰金を科した。酔ったまま法廷に立つ原告や証人を見かね、国王が「禁酒令」を出した。日本では奈良時代に、酒の製法が確立した。19世紀半ば、フランス人細菌学者が香りや風味に支障をきたさない「低温殺菌法」を発見した。日本では室町時代から「火入れ」という名で行われており、世界を驚かした。長く愛されてきた酒が今人々を脅かしている。

02年6月、道路交通法が改正された。酒酔い運転は懲役刑が2年から3年へ、罰金刑は10万円以下から50万円以下となった。新潟県見附市では先月、酒酔い運転をしたら、事故の程度を問わず懲戒免職という規定を設けた。今まで、職員の懲戒処分規定はなかった。一般企業でも、厳罰化は進む。社員が飲酒運転をすれば即解雇とした会社も出た。「一杯べらいならはもう許されない」。本学も意識が変わってきている。04年から、やどかり祭でアルコール販売を規制した。トラブル防止のため大学からの要請があった。今年の学園祭でも要請が出た。学生たちで話し合い、規制はかたがた、販売時の年齢確認を徹底した。飲酒運転事故の被害者を想うと、厳罰化は仕方ない。だが再び、見かねた国王が「禁酒令」を出さないことを願う。

総合科目

新編成へ向け議論白熱

説明会 問われる「教養教育」

来年度から始まる新総合科目の編成の指針を説明する...

「新総合科目の編成の指針と留意点では、広い分野の視野を養うという総合科目の趣旨に基づいた学群...

所会 職員、看護師ら80人参加 開所に向け準備進む

本学職員の子育て環境を改善しようと、追越共済棟で進められている「ゆりのき保育所」の開設に先立ち...

保育所を運営する人事課では、「現在、学外の保育所に子どもを預けている人...

結果を冊子にまとめ公開

授業評価アンケート

工学システム学類では、独自の授業評価アンケートを毎学期末に実施...

で結果を閲覧することも可能だ。アンケート結果に基づいて、7年前に入門的な授業として「数学序論」...

業績書作成も義務化

シス

工学システム学類では、独自の授業評価アンケートを毎学期末に実施...

の日本技術者教育認定を受けることになったことを機に、授業評価への教員全員の参加と結果の公開が義務になった。

卒業生が語る舞台裏

「今すべきは旅と恋愛」

マスコミに就職した卒業生が主催した「マスコミ就活フォーラム」が10月21日、大学会館で開催された。



実体験を交えた卒業生の話に、参加者は聞き入った

卒業生は、NHKディレクターの飯田健治さん(96年人文卒)、朝日新聞記者の島俊彰さん(同環境科学)に携わった。「良い番組を作りたい」と話した。

大学院再編

芸術、環境研究科を再編

芸術は前期・後期制へ

来年度から芸術研究科を廃止し、人間総合科学研究科博士課程芸術学専攻と統合して、前期・後期制へ再編する計画がすすめられている。

環境問題への理解を深める

環境ワークショップ



いかに環境負荷を軽減するかが話し合われた

本学キャンパス周辺の環境状況と、その改善について話し合う「筑波大学環境報告ワークショップ」が10月25日、理系修土C棟...

河野教授が内定

2016年夏季五輪 招致委員会事務総長

本学の河野一郎教授(体育)が、2016年夏季五輪の招致委員会事務総長に内定した。日本オリンピック委員会(JOC)の人選を10月31日までに東京都が承し、就任が内定した。

岩崎寛和氏(いわさきひろかず)本学名誉教授

1932年東京大医学部医学科卒、60年同大医学博士。56年同大医学部附属病院助手、59年横浜国立大兼横濱医科大学講師、70年横浜国立大助教授、75年本学臨床医学系教授、90年本学附属病院長。

関東女子学生リーグ戦

接戦制し、3連覇達成

拓大、日体大を振り切り優勝

最優秀選手賞に櫻田

バスケット

関東の大学一を争う関東女子学生バスケットボール1部リーグ戦が9月2日から10月22日にかけて開催された。本学は11勝3敗、勝ち点25で優勝した。本学がリーグで優勝するのは3年連続10回目。

大会前半、本学は順調に

勝ち進み5連勝した。しかし9月17日の対早大第2戦、本学のシュートが思うように決まらず敗れた。翌週は拓殖大との、同率首位同士の対戦となった。第1戦序盤、本学は早大戦の悪い流れを引きずり、シュートが決まらず、第1ピリオドを13-21で終える。しかし試合中盤、櫻田佳恵



拓大戦でシュートを決める鈴木 (埼玉県立体育館で)

本学は単独首位のまま2位日体大との最終戦を迎えた。第1戦序盤、本学は思うように点が取れなかった。「ボールを積極的に取りに行け」と、内山治樹監督(体育・助教授)が声を掛ける。近藤啓子(同4年)で拓殖大のディフェンスをかき乱す。前半を36-29で終了。その後も追いつくが拓殖大を振り切り、67-63で勝利。流れを取り戻した本学は翌日の第2戦も終始リードを保ち、91-68で勝利。単独首位に躍り出た。

「昨年の4年生レギュラー4人が抜けた。このメンバーでの勝利は大きい。一気個人賞は次の通り。▽最優秀選手賞 櫻田佳恵▽優秀選手賞 有明葵衣▽最優秀監督賞 内山治樹」

世界バレー プエルトリコ代表が来筑

事前キャンプ、公開試合も

世界バレーの開催にあたり、プエルトリコの女子バレーチーム21人が10月23日から29日にかけて本学で事前キャンプを行った。エキシビジョンマッチとして、10月28日には球技体育館で本学女子バレーボール部と対戦した。本学はスト



「世界」を相手に熱戦を繰り広げた

に11月のインカレ優勝を目指す。指したい」と語った。個人賞は次の通り。▽最優秀選手賞 櫻田佳恵▽優秀選手賞 有明葵衣▽最優秀監督賞 内山治樹

マツポイントを迎えた。しかしプエルトリコ代表の3連勝得点により24-26で惜しくもセットを奪われた。その後、調子を取り戻したプエルトリコに本学はスパイクをねらわれ、第2セットを15-25、第3セットを19-25で落とした。プエルトリコ代表のアウ

プエルトリコ代表のプエルトリコ代表の高さを生かしたブロックにより19-2と離されたが、プエルトリコ代表のミスもあり6連続得点を決め、24-23で勝利した。本学はスト

記録ファイル
◆秩父宮賜杯第46回実業団・学生対抗陸上競技大会(10月22日、小田原市宮陸上競技場) 【男子】▽1000m 2位・斎藤仁志 10秒51▽1100m 2位・斎藤仁志 10秒51▽1500m 2位・岸原 14秒37▽5000m 2位・岸原 37分37秒▽10000m 2位・岸原 1時間14分37秒▽20000m 2位・岸原 2時間37分37秒▽50000m 2位・岸原 6時間37分37秒▽100000m 2位・岸原 13時間37分37秒 【女子】▽8000m 2位・品田貴恵子 24分11秒▽10000m 2位・品田貴恵子 31分38秒▽15000m 2位・品田貴恵子 44分38秒▽20000m 2位・品田貴恵子 1時間14分07秒

全日本学生体重別選手権 福見、貫禄のオール一本勝ち

佐藤ら5人が準優勝

柔道

各階級の学生日本一を争う全日本学生柔道体重別選手権が10月14-15日にか



福見は最後まで冷静だった (日本武道館で)

て日本武道館(東京・千代田区)で開催され、本学からは19人が出場した。48キロ級で福見友子(体専3年)が全試合一本勝ちで2連覇

を達成したほか、5人が準優勝を果たした。福見は決勝までを全て一本勝ちして、大木千夏(福岡工業大)を迎えた。開始1分、いきなり相手を倒し

て技ありを奪うと、そのまま縦四方固めをかけた。完璧に固め、身動きさせないまま25秒、押さえ技一本勝ちをおさめた。

福見の優勝について岡田弘隆監督(体育・助教授)は、「当然だ。本人も同じ気持ちだろう」と語る。福見は今大会を「負けるわけ

にはいかない大会」と位置づけていた。若手のライバルの山岸絵美(三井住友海上)や中村美里(渋谷教育学園渋谷高)が出場しない。今大会は「11月の講道館杯への通過点」というのが福見の本音だ。「満足できる試合は一つもなかった。立ち技で一本とれるよう、研究を重ねる」と、あくまで冷静に語った。

2日目、100キロ超級に出場した佐藤尊(同4年)は決勝、立山広喜(国士館大)と対戦、激しく闘志をぶつけ合う試合となった。「冷静に」と双方のベ

ンチが声をかける中、中盤佐藤が立山を倒して有効を奪う。このまま優勢勝ちか

卓球

全日本学生卓球選手権 野中、惜しくも2位

大学卓球日本一を決定する第73回全日本学生卓球選手権大会が10月12-15日にかけて兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で開催された。本学からは、女子シングルスで野中由紀(体専3年)が2位、伊藤まど(同

3年)が3位に入賞した。野中、伊藤は順当にベスト4を決め準決勝を勝利し、準決勝を迎えた。準決勝は野中、伊藤の本学同士

の戦いとなった。互いに気持を全面に出し、4-2で野中が勝利した。決勝は野中と中央大の渡辺裕子が対戦した。世界大

優勝選手賞 櫻田佳恵▽優秀選手賞 有明葵衣▽最優秀監督賞 内山治樹

に11月のインカレ優勝を目指す。指したい」と語った。個人賞は次の通り。▽最優秀選手賞 櫻田佳恵▽優秀選手賞 有明葵衣▽最優秀監督賞 内山治樹

マツポイントを迎えた。しかしプエルトリコ代表の3連勝得点により24-26で惜しくもセットを奪われた。その後、調子を取り戻したプエルトリコに本学はスパイクをねらわれ、第2セットを15-25、第3セットを19-25で落とした。プエルトリコ代表のアウ

流れを変える鋭い速攻



女子バスケット部の切り込み隊長 有明葵衣 (体専2年)

流れを変える鋭い速攻

それを印象づける試合が、先日行われた関東女子学生リーグ戦だった。同率首位の拓殖大との試合、本学は、早大戦での敗戦の悪い雰囲気を引きずり、思うように得点

を破り、全国4位に食い込んだ。この試合、有明は40得点をあげた。主将になった3年にガードに転向。その後も攻守でチームを支えた。

この頃友人に誘われ、比較化学類)

ない分、平面の動きでかき乱す」と有明は語る。秋田経法大高時代は、3年までセンターとして活躍した。高校2年のウインターズカップでは、インターハイ優勝16回を誇る強豪、札幌山の手高を破り、全国4位に食い込んだ。この試合、有明は40得点をあげた。主将になった3年にガードに転向。その後も攻守でチームを支えた。

それを印象づける試合が、先日行われた関東女子学生リーグ戦だった。同率首位の拓殖大との試合、本学は、早大戦での敗戦の悪い雰囲気を引きずり、思うように得点



「あの試合の勝利は有明あってのもの」と活躍をたたえる。2位日体大との直接対決の初戦でも、終盤残り1分、10点差からの追いついで同点シュートを決め、翌日の最終戦に向けて良い流れを作った。

卒業後は実業団入りを考えているが、「今はチームで大学の頂点に登りたい。今以上に尊敬する選手は、同じ秋田出身で、NBAの田臥勇太。『自分を活かす』、周りも活かすプレーは、学ぶところが多い」と語る。(本紙・齋藤電太 比較化学類)

インカレを観戦。そこで本学のプレーや、チームの明るい雰囲気魅せられ、本学に入学した。有明は自らのポジションであるポイントガードを「試合の流れを握るポジション」と分析する。

監督(体育・助教授)も、「あの試合の勝利は有明あってのもの」と活躍をたたえる。2位日体大との直接対決の初戦でも、終盤残り1分、10点差からの追いついで同点シュートを決め、翌日の最終戦に向けて良い流れを作った。

本学のオリンピック講座を激励

IOC会長に名誉博士号



表彰を受けるロゲ会長(大会会館国際会議室)

本学が開設するオリンピック講座に対し、激励のメッセージを送るなど継続的な支援をしたとして、本学は10月20日、国際オリンピック委員会(IOC)のジャック・ロゲ会長を招待し、名誉博士号を授与した。授

ロゲ会長が記念講演

本学生ら300人が静聴

本学では、03年度から継続してオリンピック講座を開講してきた。本学教員の他、オリンピックに関わるさまざまな専門家を講師陣として招き、それぞれの分野からオリンピックについて講義するものだ。これまでIOC副会長の猪谷千春氏や、スポーツ写真家の青木紘二氏などを招いた。この日のために来日したロゲ会長は、夫妻で入場し、岩崎洋一学長から名誉博士号を受け取った。その後、オリンピック・ムーブメントとアカデミーの役割」と題した記念講演を行った。ロゲ会長は「現代のスポーツ界に求められるのは、若者がフェアプレイ精神を持つことを奨励し、彼らの幸福

に寄与すること語った。また、授与式、記念講演の後は、総合交流会館でレセプションパーティーが行われた。餅つきイベントで、ロゲ会長が力強く杵を振り下ろすと、周囲から学群のレジャー論研究室の

3社が特別賞を獲得

本学発ベンチャーが受賞

つづは発ベンチャー企業を応援する目的で昨年からはまった、第2回つづはベンチャー大賞の授賞式が10月27日、つくばカピオで行われ、3社が特別賞を受賞した。つづは・IT賞に「メディアステック」(本社 東京・渋谷区、資本金



特別賞を受賞したMCBI(つくばカピオ・ホールで)

学生らが企画、運営をした。レジャー論研究室の嵯峨寿助教授(体育)は「式典が厳かに行えたことや、多くの学生が参加してくれたこともあり、今回の招待は成功したと思う」と話した。

3億4600万円)、つづは・アントプレナー賞に「ソフトイサー」(本社 つづは市吾妻、資本金2000万円)、つづは・チャレンジャー賞に「MCBI」(本社 つづは市二の宮、資本金9060万円)がそれぞれ選ばれた。メディアステックは、IT関連のコンサルティングなどを手がける宮内淑子氏が、北川高嗣教授(シス情)の研究成果を基に00年6月に創業。「MSコード」という次元バーコードの開発など、便利で安全に利用できるIT技術の開発が評価された。例えば、雑誌やテレビに表示されたMSコードを、携帯電話で読み取れば、コードの持つ情報やサービスが利用できる。ソフトイサーは、登大遊

原点

学生時代の主要な関心は物理に出てくる数学であった。現代物理学の重要な柱が量子力学で、その数学的基礎が関数解析学であり、その土台を築いた一人がスティーファン・バナッハであるという程度のことを知っていたが詳しい内容は知らなかった。4年の卒業研究の題目の中にバナッハの「線形作用素論」を見たとき、すばいこれと決めた。

古典数学に悪戦苦闘 根気強さ漱石に学ぶ

を讀んだ。数学用語は英語から類推しながら悪戦苦闘するうちに、20ページほどしたらあまり辞書を引かなくても読み進むことができるようになった。しかし、今度は古典的な数学のスタイルに



磯崎 洋

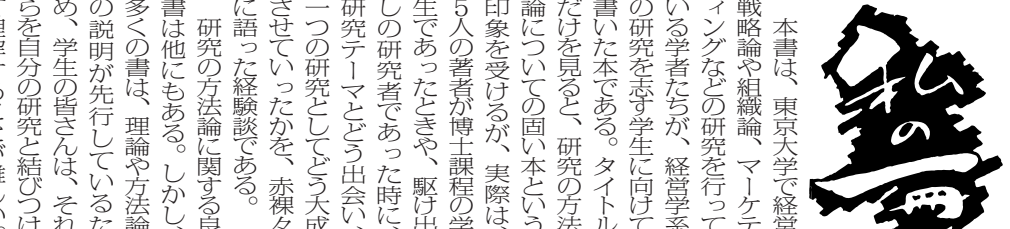
で出でなさい。世の中は根気の前に頭を下げることを知っています。火花の前には一瞬の記憶しか与えてくれません。牛は超然として押しにくいのです。我が意を得たりと思つた。

私はこのときのセミナーの指導教官の池部晃生先生がシュレディンガー方程式と呼ばれる量子力学の中の微分方程式に関する世界的研究者であることとそのとき知らずにいた。数年後に私も同じ分野を研究していた。



西尾チヅル

育大教授、コネチカット大客員研究教授を経て、76年、博士号取得。専門は応用微生物学。第1部の前奏曲、第2部のポプス・ステージに続き、客演指揮者による第3部では、ロンドンを起点に世界一周の旅を描いた「グローバルバリエーション」と紀元前から現代に至る4つの祭りを4楽章で描いた「ローマの祭り」を演



研究を志す全ての学生へ

リサーチ・マインド経営学研究法

藤本隆宏編

理論化という一連の研究プロセスが語られており、実証研究の要件、研究の技法や方法論など、経営学や社会科学の研究を行う上で不可欠な基礎的な知識や考え方が、本書の中でコンパクトにまとめられている。このように「世界観」一つ一つでも、著者ごとに着眼点や発想が異なり、各著者独自の「研究者観」が浮き彫りにされていて、非常に興味深い。しかも本書で展開されている議論は、経営学や社会科学といった領域に特化したことではなく、全領域に共通する。よって本書は「経営学研究法」とあるが、私は、研究者を目指す、または研究を志す人々にとお薦めしている。 (有斐閣・2100円) ヒジネ

秋の叙勲が11月3日、発表され、本学関係者から4人が受勲した。金子明友名誉教授と田淵武士名誉教授に瑞宝中綬章、大野博孝元附属中学校教頭に瑞宝双光賞、岡田直子元附属病院看護部副看護部長に瑞宝単光賞が授与された。

秋の叙勲 本学から4人が受勲

第56回吹奏楽団定期演奏会 ノバホールに814人来場

秋季スポーツ・デー 30周年記念企画を開催

4873人が参加

五輪メダリスト迎え講演



第30回秋季スポーツ・デーが快晴のもと10月21、22の両日、陸上競技場で。

第30回秋季スポーツ・デーが快晴のもと10月21、22の両日、陸上競技場で。

より1545人多い延べ4873人が参加した。

正式種目、記念企画、学生企画、サークル企画の4企画があり、各会場ではバレーボール、駅伝などの競技が行われた。

スポーツ・デー30周年記念企画「大学生クイズ」は、両日、陸上競技場や総合体育館で開催。260人の参加者は3人1組になり、7ラウンドの合計ポイントで競い合った。スポデー委員が工夫を凝らしたルールでは、知力、体力、時の運を兼ね備えていなければ決勝ラウンドへは進めない。クイズのほかオリエンテーリングやペーパーテストなどもあった。

事前登録なしで参加できる学生企画「スポーツ・フェスティバル」は、10月22日、陸上競技場で。

今年でスポーツ・デーは30周年を迎えた。秋季スポーツ・デーに先立ち9月12日、1日10教室で記念講演会「スポーツ改革」が開かれ、ソウル五輪銅メダリストの山口香・前女子柔道部監督(昭和62年度専卒)が講演した。

山口香監督は「1964年豊島区生まれ。現役時代は全日本体重別選手権10連覇や、第3回世界女子柔道選手権金メダル、ソウル五輪銅メダルなどの偉業を成し遂げた。89年、本学体育研究科修士課程を修了。現在、武蔵大助教授として教壇に立つ傍ら、本学柔道部でも指導にあたる。全日本柔道連盟の女子強化委員として後進の育成に携わっている。

応援団桐葉 部員一人で廃部の危機 硬派な印象を一掃へ



応援団「桐葉」が伝統の危機に立っている。現在正式な団員が一人しかおらず、院生のOBらの協力でなんとか活動を継続している状況だ。現在唯一の団員で、団長の黒澤友子(文4年)は「卒業までに新入部員が集まらないうと廃部になる」と頭を抱えている。め、ついに黒澤さん一人に、練習がきつそうとことを検討している。駒澤一時、団員数は50人になった。協力している院生も上ったが、03年には20のOBたちとかなかなか人に減少。その後も団員の減少に歯止めが利かず、今年4月、二人いた2年生、黒澤さんは団員が集まらない理由を「上下関係が厳しかった試合で優勝した日は、ガールの募集に力を入れる部員同士で祝杯をあげる。これも考えている。」

「桐葉」は1987年、硬式野球部の明治神宮大会優勝の感動を共有することをきっかけに発足した。東大、京大などの応援団が少なくない、さまざまな学生と交流できる」と語る。送るのに対して、本学の「桐葉」を引き継ぐなど、タンドには野球部員と一般学生、教職員がいなかった。「あまりにも寂しい」見学に来てほしい」と黒澤との声が学生から上がり、さん。残された時間はあと4カ月だ。

「自然学類記念誌」作成へ

歴代学類長・卒業生が寄稿

学類改組によって消えてしまふ自然学類の歩みを後世に残そうと、自然学類の学生たちが「自然学類記念誌」を作成している。1月の完成を目標に現在、編集作業を進めている。

自然学類記念誌は、①自然学類史②学類組織について③当時の様子紹介④統計データという内容になる。記念誌は約20人いる歴代学類長全員や名物先生に寄稿してもらったり、昔のキャンパスの様子を写した写真や各専攻の人数比、卒業生の進路の遷移なども掲載する。アカペラコーラスグループ「RAGFAIR」の奥村政佳さん(平成13年度自然学類卒)などの

有名な卒業生にも寄稿してもらった。記念誌は現役自然学類生全員に配布する他、原稿の執筆を依頼したOB・OGにも郵送する。現役の学類生には研究室やクラスを通じて配布する。製作費用は学類から援助を受けた。

自然学類は、07年度に行われる学群改組で数学類、物理学類、化学類、地球学類に改組される。地球学類は生命環境学群に、他の3学類は理工学群に組み入れられる。



記念誌を製作しているのは、熊谷さん(自然3年)ら19人だ。熊谷さんは「自然学類がなくなってしまう

前に、学類の歴史を残そう」と5月、友人らと製作活動

「女性専用で、友達も多くなってから安心しきっていた」とAさん。午前4時ごろ目が覚めると、ストッキングを被った男が、自分に覆いかぶさるような目つきでこちらを覗きこんでいた。カーテンのひもで口を押さえ付けられ、首も締め付けられた。足で蹴るなど必死に抵抗し、なんとか男を突き放した。「大声出すよ」と言われ、男は玄関のドアから逃げていったという。



「防犯意識を高めて」

「防犯意識を高めて」

この原稿の締め切りは返ると、卒業研究に役立つことばかりだった。取材の経験が調査能力の向上に直結するのはもちろん、編集中心のほとんど徹夜に近い作業は集中力を養ってくれた。先輩方にやられたのも多少の失敗でへこたれない忍耐力につながっているだろう。実は3年生の1時期体調を崩し、早めの引退を考えたこともあった。だが、あの日を思いとどまっただけで、現在の自分が助けられている。



忙しい日々疲れと充実感

忙しい日々疲れと充実感

忙しい日々疲れと充実感

学生宿舎入居者募集

12月7・8日に抽選

在校生を対象とした学生宿舎の来年度入居者の募集が始まっている。一般単身用個室の募集告知は、各宿舎の共用棟と支援室に11月16日から掲示される。

来年1月10日から掲示され、申し込みは同月17日から19日まで平砂共用棟管理事務所で受け付ける。23日に抽選を行う予定だ。その他、一の矢南新単身用個室、春日単身用個室一の矢31・33号棟・単身用個室の募集については掲示参照のこと。

フォトコンテスト

テーマは「筑波大学」

学生向け広報誌「STU」を写したものであれば「DENTS」がフォトコンテストを行う。募集する写真のテーマは「筑波大学」。学内行事やサークル活動、学内の自然など、「筑波大」に写すことを歓迎する。応募締め切りは12月6日。応募は、学内事務課(学内事務課)へ送付する。

映画「夜のピクニック」に出演 谷口能彦さん(生資4年)



二学食堂で思い出を語る谷口能彦

約1000人の高校生が二日間、60分道のりを歩いた。谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。

歩いて深めた仲間の絆

経験生かし現場指導も

炎天下の中、ひたすら歩く。谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。

谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。谷口能彦さんは、この映画「夜のピクニック」に出演した。

奨学金返還説明会

12月13日に開催

日本学生支援機構奨学金の返還説明会が12月13日午後3時から4時半まで、大会議室で開催される。この説明会は、返還に際しての注意事項を説明する。返還説明会は、返還に際しての注意事項を説明する。

新人記者募集

筑波大学新聞では、新人部員を募集しております。お気軽に覗きにきてください。有名に取材してみたい、マスコミに興味がある、文章を書くのが好き、普通のサークルじゃ物足りない、人とは違う大学生活を送りたい、パソコンなどの技術を生かした仕事がしたい。

次号は12月11日(月)発行予定です

筑波野生動物鑑



オオクチバス

学内久保池にて釣り上げられたもの。北アメリカ原産日本には食用、釣りの対象として持ち込まれたとされる。全国の湖、沼などの止水環境や流れの穏やかな河川に生息しており、強い魚食性を持つ。現在特定外来生物に指定されており、飼育や放流は法律により規制されている。(写真:文二山田啓介、生物資源学類2年・野生動物研究会)

催事

展覧会

◆22回筑波大学大学院修士課程芸術研究科作品展(MC展) 11月14日から19日まで(つばは美術館)つばは市吾妻)で開催される。開館時間は午前9時半から午後5時まで。最終日は午後4時まで、入場は同3時半まで。

音楽会

◆混声合唱団第31回定期演奏会 12月16日、ノボホールで。午後1時半開場、午後2時開演。

講演会

◆「防犯・安全運転講習」 12月5日、午後6時から午後7時45分まで。大会議室で開催される。受付は午後5時30分前まで。

大学会館書籍部ベストセラー

Table with 2 columns: Rank and Book Title/Author. 1. 手紙 (東野圭吾/文芸春秋), 2. 邪魅の雫 (京極夏彦/講談社), 3. 下流喰い (順田慎一郎/筑摩書房), 4. 愛国の作法 (姜尚中/朝日新聞社), 5. 風味絶佳 (山田詠美/文芸春秋), 6. 天使の梯子 (村山由佳/集英社), 7. 永遠。 (村山由佳/講談社), 8. 若者はなぜ3年で辞めるのか? (城繁幸/光文社), 9. 鏡の法則 (野口喜則/総合法令出版), 10. 子育てハッピーアドバイス(3) (明橋大二/1万年堂出版)

10月の1位は、東野圭吾の「手紙」。8位は城繁幸の「若者はなぜ3年で辞めるのか?」。仕事がつまらない。努力して成果をあげても、一向に報われない。やらされるのはいつまでも単純な作業だけ。「3年で3割辞める」といわれる新卒離職率。心の病を抱える30代社員の急増、ニート、フリーター問題……。現代の若者が感じる閉塞感の原因に迫る。催事は手帳カレンダーフェア(10%オフ)